

ごあいさつ

たましんコレクションの「東洋古陶磁展」を「日本の古陶磁」と「中国・朝鮮の古陶磁」の2会期で展示します。

陶磁器は、中国において生産技術を発展させ、また形態、文様などを洗練させてきました。人類が道具を使用するようになると、石器や木器などとならび土器の生産が始まります。原料となる粘土は他の素材に比べて入手しやすく、また可塑性に富んでいるため造形が容易でさまざまな形態の器を作りだすことができるところから、新石器時代には工芸の首座の地位を獲得し、その形態は金属器や漆器などの祖形となりました。その後陶磁器は焼成をはじめとする各種技術をさらに発展させ、堅牢で、美しい陶器、磁器へと展開するなかで、日常に使用する器物として広く普及し、各時代の生活様式にあわせて器形などを変化させ、洗練の度を加えて行きました。

日本や朝鮮ではそうした技術や形式を採り入れながら、それぞれの技術水準や生活様式に合わせて独自の作風を展開させています。

古陶磁はそれぞれの国の歴史、文化の所産であり、さらに日常に用いられた器物として、人間の歴史や生活を考える縁とみることができます。そうした背景に想いを馳せつつ、さらに各作品の魅力を味得していただければ幸いです。

2013年9月

たましん歴史・美術館